

要 旨

試験委託者 環境省

表 題 2, 5-ジメチルアニリンの藻類 (*Pseudokirchneriella subcapitata*)
に対する生長阻害試験

試験番号 No. 2007-生71

試験法ガイドライン

本試験は、厚生労働省医薬食品局長、経済産業省製造産業局長、環境省総合環境政策局長連名通知「新規化学物質等に係る試験の方法について」（薬食発第1121002号、平成15・11・13製局第2号、環保企発第031121002号、平成15年11月21日、平成18年11月20日一部最終改正）に従って実施した。

- 1) 被験物質 : 2, 5-ジメチルアニリン
- 2) 暴露方式 : 止水式、振とう培養 (100 rpm)
- 3) 供試生物 : *Pseudokirchneriella subcapitata* (ATCC 22662)
- 4) 暴露期間 : 72 時間
- 5) 試験濃度(設定値) : 対照区, 1.0, 2.2, 4.6, 10, 22, 46, 100 mg/L (公比 2.2)
- 6) 試験溶液量 : 100 mL (OECD 培地) / 容器
- 7) 連数 : 3 容器 / 濃度区、6 容器 / 対照区
- 8) 初期生物量 : 0.5 mg/L以下(細胞濃度として 0.5×10^4 cells/mL)
- 9) 試験温度 : 23 ± 2 °C
- 10) 照明 : 60 ~ 120 $\mu\text{E}/\text{m}^2/\text{s}$ (フラスコ液面付近) で連続照明
- 11) pH : 試験溶液の pH 調整は行わなかった
- 12) 分析法 : HPLC 法

結 果

予備的な検討の結果、被験物質に揮散性があることが判明していたものの、その程度が小さいことから開放系による試験を採用した。

1) 試験溶液中の被験物質濃度

暴露期間中の軽度の被験物質濃度の変動は、揮散による濃度減少と考えられたため、各影響濃度（50 % 生長阻害濃度、最大無影響濃度）の算出に当たっては、暴露開始時、48 時間後および暴露終了時の測定値の幾何平均値を採用した。

2) 生長速度の比較による阻害濃度

50 % 生長阻害濃度 E_rC_{50} : 29 mg/L(95 % 信頼限界 26 ~ 33 mg/L), Probit

最大無影響濃度 NOEC(Rate 0-72 hr) : 2.0 mg/L